
当院における 過去5年間の急性血液浄化療法の現状

庄司裕太、佐々木 亘、村上 亨、高橋大輝、柏谷奈津希
宮形 滋*、原田 忠*、菊谷祥博**
中通総合病院 血液浄化療法部、同 泌尿器科*、同 内科**

The present conditions of the acute blood purification therapy in our hospital for the past 5 years

Yuta Shoji, Wataru Sasaki, Toru Murakami, Daiki Takahashi
Natsuki Kashiwaya
Sigeru Miyagata*, Tadashi Harada*, Yoshihiro Kikuya**
Blood purification therapy part,
Urology department*, Internal medicine**
Nakadori General Hospital

<諸言>

当院では毎年様々な疾患に対して血液浄化療法を施行している。今回我々は現状把握の為、当院における平成18年から平成22年までの過去5年間に施行された急性血液浄化療法についてまとめたので報告する。

<臨床工学技士の役割>

当院は臨床工学技士数10名、2交代制で構成されている。

急性血液浄化を行なう場合、日中は出張業務者、時間外ではPHSでの対応を行ない、緊急時でもすぐ対応可能な24時間体制をとっている。

<各療法・機器・吸着器>

当院での5年間の急性血液浄化療法はCHDFを主体とし、PMX、PA、PE、DFPP、LDL、LCAP、GCAPを施行している。

CHDFではTR-55x等を使用し、吸着器としてエクセルフロー等を用いている。PMXではTR-55x等を用い、PMX-20Rを使用、PA、PE、DFPP、LDLではKM-9000等を使用し、イムソーバ、プラズマフロー、カスケードフロー、リポソーバを用いている。LCAP、GCAPではTR-55xを用い、セルソーバ、アダカラムを使用している。

<結果>

図1に年度別の急性血液浄化件数をグラフに示す。

平成18年が22件、次いで28件、30件、31件、18件と毎年約20～30件の急性血液浄化を施行している。

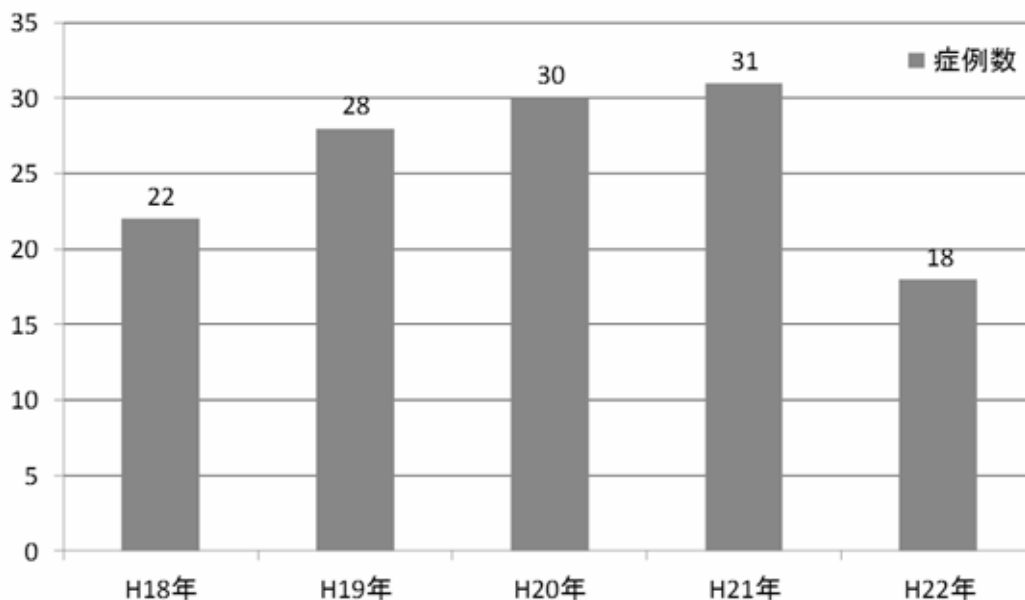


図1 年度別急性血液浄化件数

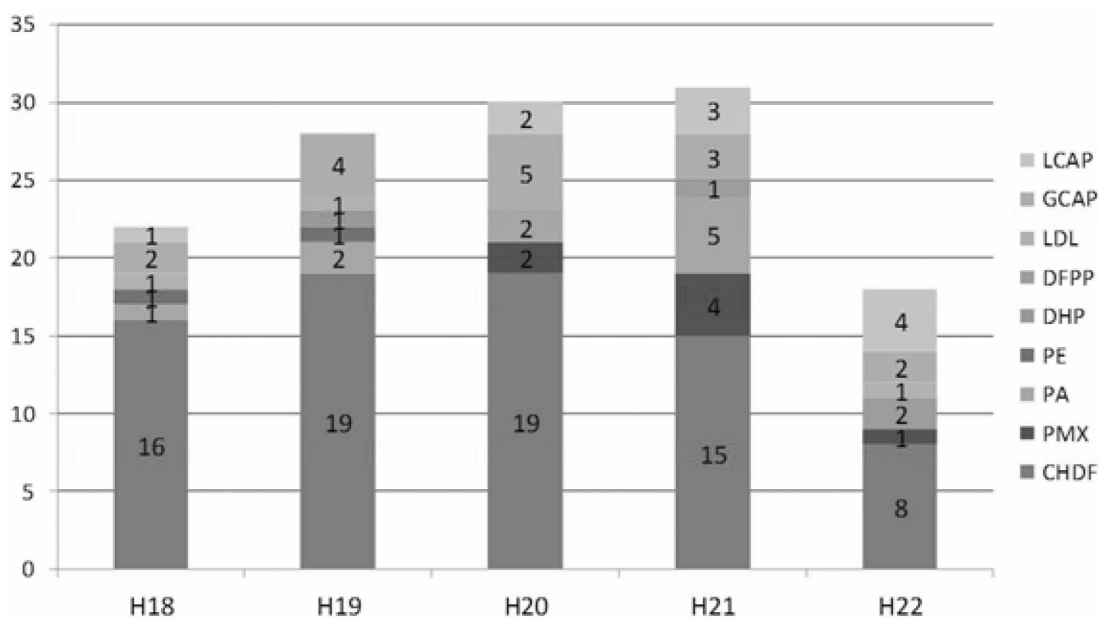


図2 治療法別件数

図2に5年間に施行された治療法別急性血液浄化件数を示す。

総症例数は129症例でそのうちCHDFが最も多く平成19年20年では19症例施行されている。年度別にみてもCHDFが急性血液浄化の中心になっている事が分かる。尚、CHDFにはPMX併用14

症例も含まれている。次いで、GCAP16件、PA10件、LCAP10件、PMX 7件である。

施行実績として5年間で最も多いCHDFの総施行件数は、1日を1件として400件行われ、平均施行日数は5.77日施行、その中で最長となったのはAMIで心カテ後に施行された1例で29日施行されていた。

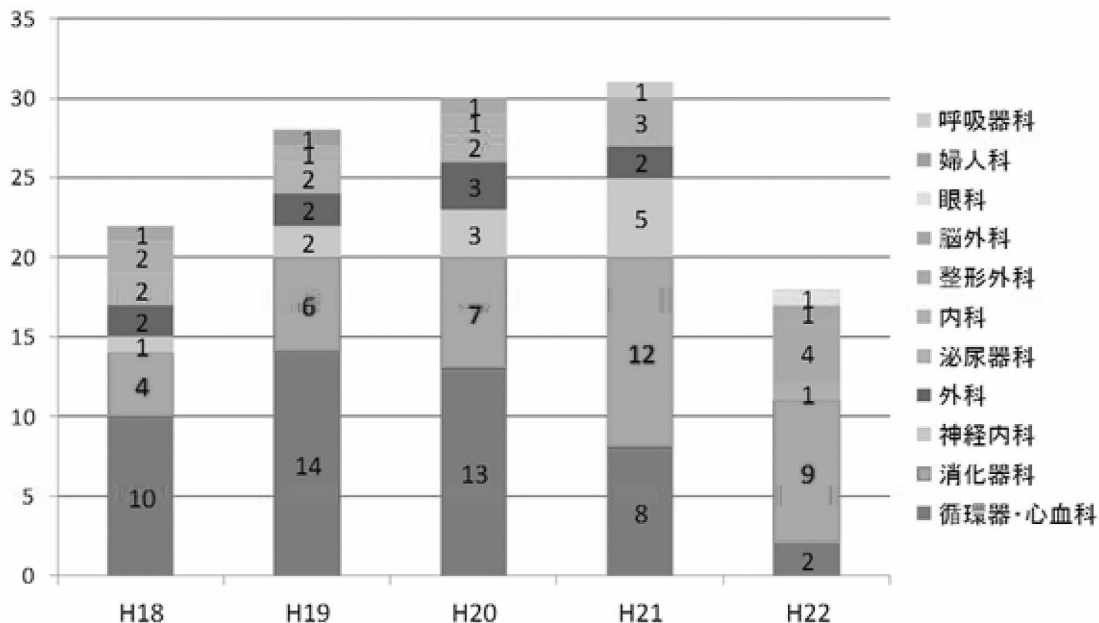


図3 依頼科別件数

図3に年度別における急性血液浄化依頼科別件数を示す。依頼科別では循環器・心臓血管外科計47件、消化器科計38件と全体の半数となっていた。

年度別でみると、平成18年から20年にかけて各科の割合として変化はみられなかったが平成21年、22年ではそれまで多かった循環器・心臓血管外科に対し、消化器科の割合が高くなっていった。これは潰瘍性大腸炎に対する、LCAP・GCAPの施行や、穿孔術後などによるCHDF+PMXが多く施行された為このような結果となっている。

心臓血管外科

・術後ARF

弁置換術後

弁形成術後

バイパス術後

循環器科

・心疾患系

AMI

・ASO 等

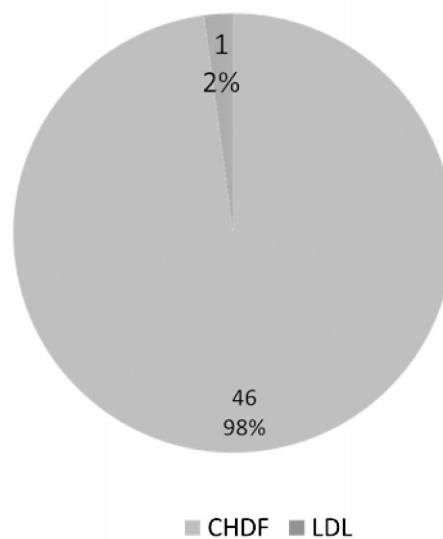


図4 循環器・心臓血管外科における原疾患と治療件数

図4に循環器・心臓血管外科における原疾患と治療件数を示す。

循環器・心臓血管外科では主に心臓血管外科での弁置換術や弁形成術、バイパス術など術後ARFや術後透析管理に多く施行され、循環器科ではAMIによる急性心不全に施行されるなど46件にCHDFやCHDF+PMXが用いられていた。また、ASOに対しLDL吸着の施行が1件行なわれ、循環器・心臓血管外科計47件施行されていた。

図5に消化器系における原疾患と治療件数を示す。

内訳として潰瘍性大腸炎に対してLCAP・GCAPが施行され全体の54%を占めていた。次いで消化管穿孔、結腸穿孔による術後ARFや、結腸癌による術後ARF、急性膵炎等の患者に対してCHDFやCHDF+PMX、PMX単独が施行され、これらが消化器系の26%を占めている。

この他に、PEでは肝不全に施行され、C型慢性肝炎に対しDFPPを施行、計38件が施行されている。

- 潰瘍性大腸炎
 - 消化管・結腸穿孔
 - 結腸癌術後
 - 急性膵炎
 - 肝不全
 - C型慢性肝炎
- 等

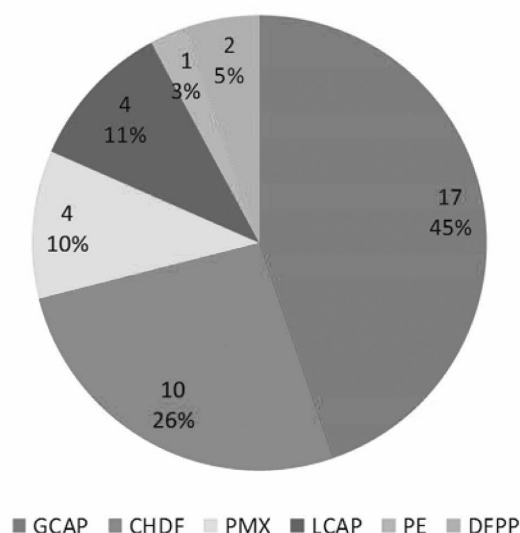


図5 消化器系における原疾患と治療件数

- ギランバレー症候群
 - 重症筋無力症
 - ARDS
 - MOF
 - 薬物中毒
 - 血栓性血小板減少性紫斑病
- 等

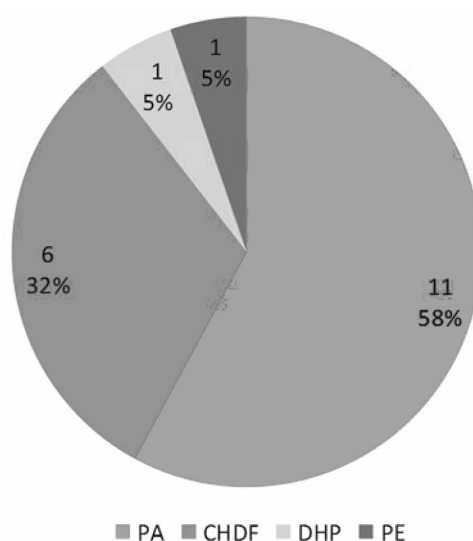


図6 内科における原疾患と治療件数

図6に内科における原疾患と治療件数を示す。

ギランバレー症候群や重症筋無力症等の疾患に対しPAを施行し11件、割合として58%と内科系の半分を占めていた。また、敗血症性ショックによるARDS後に施行した例やMOFに施行された例など計4件にCHDF、CHDF+PMXが行なわれ、他に薬物中毒に対しDHP、血栓性血小板減少性紫斑病に対しPEが施行されるなど、内科系では計19件が施行されている。

<まとめ>

過去5年間ではCHDF、CHDF+PMXが全体の59.7%と多く施行されていた

最近ではPAやDFPPなどの、除去対象を病因物質のみに絞った血液浄化療法が増加してきた。

年間では約20～30件の急性血液浄化療法が施行されており、CHDFでの依頼が主の循環器・心臓血管外科、主にGCAPでの依頼が多い消化器科が全体の半数以上（65.9%）を占める結果となった。

近年CHDFなど行うに当たり深夜帯の緊急が少なくなったように感じられる。これは件数自体が減ったのも考えられるが他職種の連携が十分に整っているためであると考えられる。

今後技士としても他職種との連携を密とし円滑に行っていきたい。